

<トマト> センチュウ類

1. 抵抗性品種又は抵抗性台木を利用する。
2. 牧之原市、掛川市の一部等では、抵抗性台木を侵すネコブセンチュウが発生しているので注意する。
3. 太陽熱消毒は、水田地帯のハウス栽培では夏期にハウスを密閉して30日間湛水する。
4. 湛水は地下15cmまでの地温が湛水時に30℃以上に上がることが必要であるので、ハウスは密閉して掛流しを避け、できるだけ浅水に保つ。
5. 対抗植物（クロタラリア、ギニアグラス）を栽培すると効果がある（生物防除法・対抗植物の項参照）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
クロールピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。

<トマト> ネコブセンチュウ

1. 抵抗性品種又は抵抗性台木を利用する。
2. 牧之原市、掛川市の一部等では、抵抗性台木を侵すネコブセンチュウが発生しているので注意する。
3. 太陽熱消毒は、水田地帯のハウス栽培では夏期にハウスを密閉して30日間湛水する。
4. 湛水は地下15cmまでの地温が湛水時に30℃以上に上がることが必要であるので、ハウスは密閉して掛流しを避け、できるだけ浅水に保つ。
5. 対抗植物（クロタラリア、ギニアグラス）を栽培すると効果がある（生物防除法・対抗植物の項参照）。
6. 野菜類のネコブセンチュウの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
ネマキック粒剤	I:1B	定植前	1回	全面土壌混和
ネマトリンエース粒剤	I:1B	定植前	1回	全面土壌混和
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
ガードホープ液剤	I:1B	収穫前日まで	1回	土壌灌注
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。

テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
ソイリン	I:8A・I:8B	作付の10～15日前まで	1回	耕起整地後、30cm間隔のトリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
クロピクフロー	I:8B		1回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。

#### <トマト> ハダニ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マイトコーネフロアブル	I:20D	収穫前日まで	1回	散布
アカリタッチ乳剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
クムラス ※1	I:UN/F:M02(M)	-	-	散布
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
ポタニガードES ※1	I:UNF	発生初期	-	散布
ムシラップ ※1		収穫前日まで	-	散布
粘着くん液剤 ※1		収穫前日まで	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

#### <トマト> トマトザビダニ

1. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（マルハナバチの被害防止の項を参照）  
2. サフオイル乳剤は、散布液調製後、攪拌しながらできるだけ速やかに散布する。  
3. パルミノに機能性展着剤を加用すると、薬害を引き起こす恐れがあるので、加用を避ける。また、ボルドー液等アルカリ性薬剤と混合すると分解が促進されるので、混用を避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	5回以内	散布
イオウフロアブル	I:UN/F:M02(M)	発生初期	-	散布
クリアザールフロアブル	I:23	収穫前日まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	3回以内	散布
コロマイト乳剤	I:6	収穫前日まで	2回以内	散布
サフオイル乳剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
パルミノ	I:UN/F:M10(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
ファインセーブフロアブル	I:34	収穫前日まで	3回以内	散布
マイトコーネフロアブル	I:20D	収穫前日まで	1回	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫前日まで	4回以内	散布

#### <トマト> アザミウマ類

1. ミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマは5～7月と9～10月に発生が多くなる。また、ミカンキイロアザミウマは耐寒性があることから冬季にも発生する。  
2. ミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマはトマト黄化えそウイルス(TSWV)を伝搬する。  
3. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（マルハナバチの被害防止の項を参照）

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ベストガード水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

#### <トマト> アブラムシ類

1. 有翅アブラムシの飛来は8月下旬から10月下旬、4月下旬から7月に多い。  
2. 主にモモアカアブラムシが寄生し、キュウリモザイクウイルスを媒介する。  
3. ハウスの開口部に防虫網を張り有翅虫の飛来を防ぐ。育苗用ハウスにも防虫網を張る（物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照）。  
4. シルバーストライプポリ又はシルバーポリのマルチをはると、有翅アブラムシの飛来が少なくなり、ウイルス病の発生を減少させることができる。  
5. エコピタ液剤、サンクリスタル乳剤、フーモン、ムシラップ、粘着くん液剤は、薬液が虫にかかると殺虫効果が  
6. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（マルハナバチの被害防止の項を参照）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ウララDF	I:29	収穫前日まで	3回以内	散布
エコピタ液剤		収穫前日まで	-	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
チェス顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
アドマイヤー1粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
モスピラン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
ダントツ粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ベストガード粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ベストガード粒剤	I:4A	は種時又は鉢上げ時	1回	育苗培土混和
ヨーバルフロアブル	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
ムシラップ ※1		収穫前日まで	-	散布
粘着くん液剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
オレート液剤 ※2	H:0	発生初期～収穫前日ま	-	散布
ボタニガード水和剤 ※3	I:UNF	発生初期	-	散布
アフィパール ※3		発生初期	-	放飼
ナミトップ ※3		発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(いちごを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

#### <トマト> コナジラミ類

1. トマトには、オンシツコナジラミ、タバココナジラミが寄生する。
2. タバココナジラミはトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を伝搬する。本虫が多寄生すると着色異常果となるので低密度に抑える。育苗期から防除を行う。
3. ハウスの開口部に防虫網を張り、成虫の飛来を防ぐ（物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照）。
4. 夏期にはハウスを密閉し熱殺する。
5. 発生のまん延を防ぐため、被害植物や雑草は除去後埋没するか、屋外に堆積し、薬剤を散布してからビニールをかけて死滅させる。
6. エコピタ液剤、サンクリスタル乳剤は、薬液が虫にかからないと殺虫効果がない。
7. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（マルハナバチの被害防止の項を参照）。
8. ベネビアODはストロビルリン系の薬剤を含む農薬および銅剤との混用で薬害を生じるおそれがあるので、混用を避ける。また、ストロビルリン系薬剤を含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて使用する。
9. モベントフロアブルはマルハナバチへの影響日数が30日と長いので注意する（マルハナバチに対する被害防止の項を参照）。
10. ボタニガードESの使用に当たっては、生物的防除法 4.天敵資材による防除方法の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグリメック	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
アニキ乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	収穫前日まで	3回以内	散布
エコピタ液剤		収穫前日まで	-	散布
クリアザールフロアブル	I:23	収穫前日まで	2回以内	散布
グレーシア乳剤	I:30	収穫前日まで	2回以内	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
コロマイト乳剤	I:6	収穫前日まで	2回以内	散布
サフオイル乳剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	2回以内	散布
チェス顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫前日まで	2回以内	散布
バリアード顆粒水和剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ベストガード水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ベネビアOD	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
ボタニガードES	I:UNF	発生初期	-	散布
モベントフロアブル	I:23	収穫前日まで	3回以内	散布
アルバリン粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布
スタークル粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布
ダントツ粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元処理
アクタラ粒剤5	I:4A	定植時	1回	植穴処理
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
モスピラン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
ダントツ粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ベストガード粒剤	I:4A	は種時又は鉢上げ時	1回	育苗培土混和
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	鉢上時又は定植時	1回	灌注
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	鉢上時又は定植時	1回	灌注

プレバゾンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ベリマークSC	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ポタニガード水和剤	I:UNF	発生前～発生初期	-	ダケ内投入
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
ポタニガードES ※1	I:UNF	発生初期	-	散布
ムシラップ ※1		収穫前日まで	-	散布
オレート液剤 ※2	H:0	発生初期～収穫前日ま	-	散布
プリファード水和剤 ※3		発生初期	-	散布
ポタニガード水和剤 ※4	I:UNF	発生初期	-	散布
エルカード ※4		発生初期	-	放飼
エンストリップ ※4		発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(いちごを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(施設栽培、ただし、いちごを除く)」の登録薬剤

※4 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

#### <トマト> オオニシユウヤホシテントウ

1. 成虫、幼虫ともに葉裏から食害するので、葉裏に薬剤が十分かかるようにする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤	I:1B	収穫前日まで	2回以内	散布

#### <トマト> ハモグリハエ類

1. ハウスの開口部に防虫網を張り、成虫の飛来を防ぐ(物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)。

2. 育苗期の防除を徹底し、本ほに無寄生苗を定植する。

3. 雑草にも寄生するのでハウス内及び周辺の除草を行う。

4. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること(マルハナバチの被害防止の項を参照)。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コロマイト乳剤	I:6	収穫前日まで	2回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トリガード液剤	I:17	収穫前日まで	3回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
アルバリン粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布
スタークル粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布
アクタラ粒剤5	I:4A	定植時	1回	植穴処理
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
ダントツ粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ヨーバルフロアブル	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ヒメトツ ※1		発生初期	-	放飼
ミドリヒメ ※1		発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

#### <トマト> トマトハモグリハエ

1. ハウスの開口部に防虫網を張り、成虫の飛来を防ぐ(物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)。

2. 育苗期の防除を徹底し、本ほに無寄生苗を定植する。

3. 雑草にも寄生するのでハウス内及び周辺の除草を行う。

4. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること(家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止の項を参照)。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスケード乳剤	I:15	収穫前日まで	4回以内	散布
モスピラン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和

#### <トマト> ハスモンヨトウ

1. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること(家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止の項を参照)。

2. 幼虫の齢期が進むと薬剤に対する抵抗力が強くなるので早期発見、早期防除に努める。

3. ビニールの障壁を設けたり、溝を掘るなどして幼虫の侵入を防止する。

4. 老齢幼虫は捕殺に努める。

5. 黄色灯の利用により、発生を軽減できる。「物理的防除法」を参照する。

6. 施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、成虫のと飛込みを防ぐ。「物理的防除法4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタブロン乳剤	I:15	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫前日まで	4回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日 まで)	-	散布

クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

<トマト> オオタバコガ

1. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（マルハナバチの被害防止の項を参照）
2. 幼虫の齢期が進むと殺虫効果が落ちるので、老熟幼虫は補殺する。
3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、成虫のと飛込みを防ぐ。「物理的防除法4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタブロン乳剤	I:15	収穫前日まで	3回以内	散布
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	5回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫前日まで	4回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	3回以内	散布
スピノエース顆粒水和剤	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
ファルコンフロアブル	I:18	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫前日まで	2回以内	散布
プレバゾンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫前日まで	4回以内	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
エスマルクDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
トアローフロアブルCT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

<トマト> 青枯病

1. 7～9月の20℃以上の温度で発病するので注意する。
2. 刃物はケミクロンG50～100倍液に約5秒間浸漬して消毒する。
3. 発生があった場合は5～6年間以上ナス科作物の栽培をやめる。
4. 常発地帯では有底床（ビニルを敷くなど）として隔離する。
5. 耐病性品種を栽培する。
6. 抵抗性台木に接木する。
7. 発病株は抜き取って処分する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
クロールピクリン錠剤			2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
クロールピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり10～15錠処理」地表面に所定量を散布処理する。

クロルピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり15～20錠処理」地表面に所定量を散布処理後、深耕ローリーを用いて混和处理する。
-----------	------	--	--------------------------	--

<トマト> 萎凋病

1. 萎凋病には、3つのレース (J1、J2、J3) が知られている。
2. 抵抗性品種を栽培する。
3. 抵抗性台木に接木する。
4. 発病株は抜き取り処分する。
5. 発病は場は連作を避け、5～6年間以上ナス科作物の栽培をやめる。
6. ネコブセンチュウ類の寄生は本病を誘発するが、クロルピクリンくん蒸剤はこれらにも登録が有る。
7. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
ベンレート水和剤 クロールピクリン	F:1(B1) I:8B	定植前～定植1ヶ月後	2回以内 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌灌注 土壌くん蒸
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
トラベックサイド油剤	I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	・圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のチリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しポリエチレン、ビニール等で被覆する。 ・薬剤処理7～10日後にガス抜き作業を行う。
ソイリン	I:8A・I:8B	作付の10～15日前まで	1回	耕起整地後、30cm間隔のチリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
クロピクフロー	I:8B		1回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
クロルピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。 <圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
クロルピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。

〈トマト〉 うどんこ病

- カリグリーンは治療効果にすぐれるが残効性が短いので、発病初期に1週間に2～3回集中散布する。
- 野菜類のうどんこ病の項も参照する。
- パルミノに機能性展着剤を加用すると、葉害を引き起こす恐れがあるので、加用を避ける。また、ボルドー液等アルカリ性薬剤と混合すると分解が促進されるので、混用を避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフェットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
エコピタ液剤		収穫前日まで	-	散布
カリグリーン	F:NC	収穫前日まで	-	散布
クロスアウトフロアブル	F:50(B6)	収穫前日まで	2回以内	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
パルミノ	I:UN/F:M10(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
パンチョTF顆粒水和剤	F:3(G1)・F:U06(U)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
園芸ボルドー	I:UN/F:M02(M)・F:M01(M)	-	-	散布
アカリタッチ乳剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
グリーンカップ ※1	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
ハーモイト水溶剤 ※1	F:NC	収穫前日まで	-	散布
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
粘着くん液剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
インプレッションクリア ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布
ボタニガードES ※1	I:UNF	発病前～発病初期	-	散布
ボトキラー水和剤 ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

〈トマト〉 疫病

- 露地栽培では敷きわらを行う。
- 温室やビニルハウスで低温多湿時には加温して乾燥をはかる。
- 敷きわらをする(施設栽培:1t/10a)。施設での敷きわらは、冬期に夜温が1～3℃低下するので注意する。
- 発病期に降雨が続く時は小雨中でも薬剤散布が必要である。
- 薬剤散布は発病前から4～7日おきに葉及び茎にていねいに散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
クプロシールド	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
グリーンカップ	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	-	-	散布
ジマンダイセンフロアブル	I:UN/F:M03(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ゾーベック エニベル 顆粒水和剤	I:UN/F:M03(M)・F:49(F9)	収穫前日まで	2回以内	散布
ゾーベックエンテクタSE	F:21(C4)・F:49(F9)	収穫前日まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	-	-	散布
フェスティバル水和剤	F:40(H5)・F:M01(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
フォリオゴールド	F:4(A1)・F:M05(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
プロポーズ顆粒水和剤	F:40(H5)・F:M05(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
ベンコゼブフロアブル	I:UN/F:M03(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ホライズンドライフロアブル	F:11(C3)・F:27(U)	収穫前日まで	3回以内	散布
ライメイフロアブル	F:21(C4)	収穫前日まで	4回以内	散布
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫前日まで	4回以内	散布
レーバスフロアブル	F:40(H5)	収穫前日まで	3回以内	散布
園芸ボルドー	I:UN/F:M02(M)・F:M01(M)	-	-	散布

〈トマト〉 かいよう病

- 摘心、摘芽の時に伝染ないように発病株に触らない。
- 発病株は抜き取り処分する。
- 床枠、支柱などの資材はケミクロンGで消毒する。ケミクロンGの使用は以下の点に注意する。(1)強力な酸化剤のため、取扱いに注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
カッパーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
クプロシールド	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布

〈トマト〉 褐色根腐病

- 抵抗性品種を台木として接木栽培する。
- 初期発病株は見つけしだい抜き取って処分する。発病後期のものは収穫後集めて処分する。
- 水田地帯のハウス栽培では夏作に水稻を栽培する。発病が増加した場合には、次の方法でハウス処理を行う。夏の高温期(7月上旬～9月上旬)に10a当たり稲わら1tと石灰窒素100kgを土壌中にすき込み、湛水した後ビニルマルチを行うか、又は還元状態が作り易い土壌では代かき湛水のみでハウスを密閉する。
- ハウス密閉処理はハウスのビニールの汚れのひどい時は洗浄する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
-----	--------	----	----	------

ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

#### <トマト> すすかび病

1. 本病は葉かび病に症状が類似しており肉眼での判別は困難。顕微鏡観察では分生子が細長いことから容易に判断でき
2. 葉かび病抵抗性の有無に関わらず発病するため、抵抗性品種に発病がみられた場合には、本病の可能性がある。
3. 発病葉や残渣は伝染源となるので除去し、ほ場外へ出して処分する。
4. 施設内では多湿条件とならないよう、かん水、換気に注意する。
5. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフエットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
グリーンカップ	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
シグナムWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	収穫前日まで	2回以内	散布
ダイアメリットDF	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
ダコニール1000	F:19(H4)			
トリフィン水和剤	F:M05(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
ニマイパー水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	5回以内	散布
フセキワイドフロアブル	F:1(B1)・F:10(B2)	収穫前日まで	3回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:53(B7)・F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
園芸ボルドー	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
置型しなもん	I:UN/F:M02(M)・F:M01(M)	-	-	散布
	F:BM03(BM)	発病前～発病初期	-	本剤を温風を発生する装置の吹出口付近に設置して揮散させる

#### <トマト> 苗立枯病(ピシウム菌)

1. 床土は過湿にならないよう管理する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

#### <トマト> 苗立枯病

1. 苗立枯病の主な病原菌はリゾクトニアであるが、その他ピシウム、フィトフィトラ、フザリウムなどによる病害もあ
2. 床土は過湿にならないよう管理する。
3. 病原菌の種類によって使用できる薬剤に制限があるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オーソサイド水和剤80	F:M04(M)	は種後から2～3葉期まで	5回以内	灌注
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
クロールピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。

#### <トマト> 苗立枯病(リゾクトニア菌)

1. 床土は過湿にならないよう管理する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。
ダコニール1000	F:M05(M)	は種時又は活着後(但し、定植14日後まで)	2回以内	土壌灌注
モンカットフロアブル40	F:7(C2)	は種時～子葉展開時	1回	土壌灌注
リゾレックス水和剤	F:14(F3)	は種時	1回	土壌灌注
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

<トマト> 根腐萎凋病

1. 萎凋病 (J3) として同定されていたが、1989年に根腐萎凋病に改められた。萎凋病と違い低温期に発生が多い。
2. 抵抗性台木に接木する。
3. 発病株は抜き取り処分する。
4. 発病は場は連作を避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

<トマト> 灰色かび病

1. ハウス栽培では換気を十分して湿度を下げる。
2. 被害果及び茎葉は摘みとって処分する。
3. 敷きわらをする(施設栽培:1t/10a)
4. 施設での敷きわらは冬期の夜温が1～3℃低下するので注意する。
5. カリグリーンは治療効果にすぐれるが残効性が短いので、発病初期に1週間に2～3回集中散布する。
6. 野菜類の灰色かび病の項も参照する。
7. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロケア水和剤	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	散布
アフエットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
カナメフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	4回以内	散布
カリグリーン	F:NC	収穫前日まで	-	散布
ゲッター水和剤	F:1(B1)・F:10(B2)	収穫前日まで	5回以内	散布
ケンジャフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
ジャストミート顆粒水和剤	F:12(E2)・F:17(G3)	収穫前日まで	3回以内	散布
セイビアーフロアブル20	F:12(E2)	収穫前日まで	3回以内	散布
ピクシオDF	F:17(G3)	収穫前日まで	4回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
フルピカフロアブル	F:9(D1)	収穫前日まで	4回以内	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ポリオキシシAL水溶剤	F:19(H4)	収穫前日まで	3回以内	散布
ロブラール500アクア	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	散布
置型しなもん	F:BM03(BM)	発病前～発病初期	-	本剤を温風を発生する装置の吹出口付近に設置して揮散させる
ロブラールくん煙剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	くん煙
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	常温煙霧
エコショット ※1	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	散布
クリーンカップ ※1	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
ハーモイト水溶剤 ※1	F:NC	収穫前日まで	-	散布
インプレッションクリア ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布
ボトキラー水和剤 ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布
アグロケア水和剤 ※1	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	常温煙霧
ボトキラー水和剤 ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	常温煙霧

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

<トマト> 葉かび病

1. 抵抗性品種を栽培する。
2. 温室やビニルハウスでは多湿にならないよう、かん水、換気、温度に注意する。
3. アグロケア水和剤、インプレッションクリア、エコショットについては生物的防除法 2.拮抗作用を利用した防除方法の項を参照。
4. トリフミン水和剤は薬剤耐性菌が発生する恐れがあるので連用しない(1作期3回以内)。
5. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロケア水和剤	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	散布
アフエットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
インプレッションクリア	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布
エコショット	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
カップパーシ水水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
カンタスドライブフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
クリーンカップ	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
ゲッター水和剤	F:1(B1)・F:10(B2)	収穫前日まで	5回以内	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
シグナムWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	収穫前日まで	2回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布

ダコニール1000	F:M05(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
フセキワイドフロアブル	F:53(B7)・F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
プロボース顆粒水和剤	F:40(H5)・F:M05(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
ペンコゼブフロアブル	I:UN/F:M03(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ポリオキシシンAL水溶剤	F:19(H4)	収穫前日まで	3回以内	散布
ラリー乳剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
園芸ボルドー	I:UN/F:M02(M)・F:M01(M)	-	-	散布

#### <トマト> 斑点細菌病

1. 換気をはかり、多湿条件下で栽培しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
銅パーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
コサイド3000 ※1	F:M01(M)	-	-	散布
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

#### <トマト> 斑点病

1. 窒素肥料の過多を避けるとともに、肥切れさせない。

2. 換気をはかり、多湿条件下で栽培しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスターオブティフロアブル	F:11(C3)・F:M05(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	-	-	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	散布

#### <トマト> 輪紋病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
銅パーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
シグナムWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	収穫前日まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
ペンコゼブフロアブル	I:UN/F:M03(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	散布

#### <ミニトマト> センチュウ類

1. 抵抗性品種又は台木の効果が高いのでこれを利用する。

2. 牧之原市、掛川市の一部地域では、抵抗性台木を侵すネコブセンチュウが発生しているので注意する。

3. 太陽熱消毒は、水田地帯のハウス栽培では夏期にハウスを密閉して30日間湛水する。

4. 湛水は地下15cmまでの地温が湛水時に30℃以上に上がることが必要であるので、ハウスは密閉して掛流しを避け、できるだけ浅水に保つ。

5. 対抗植物（クロタラリア、ギニアグラス）を栽培すると効果がある。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回)	土壌くん蒸
クロールピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。

#### <ミニトマト> ネコブセンチュウ

1. 抵抗性品種又は台木の効果が高いのでこれを利用する。

2. 牧之原市、掛川市の一部地域では、抵抗性台木を侵すネコブセンチュウが発生しているので注意する。

3. 太陽熱消毒は、水田地帯のハウス栽培では夏期にハウスを密閉して30日間湛水する。

4. 湛水は地下15cmまでの地温が湛水時に30℃以上に上がることが必要であるので、ハウスは密閉して掛流しを避け、できるだけ浅水に保つ。

5. 対抗植物（クロタラリア、ギニアグラス）を栽培すると効果がある。

6. 野菜類のネコブセンチュウの項も参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
ネマキック粒剤	I:1B	定植前	1回	全面土壌混和
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
ガードホープ液剤 クロピクテープ	I:1B I:8B	収穫前日まで	1回 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌灌注 土壌くん蒸
DC油剤	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
D-D	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
テロン	I:8A	作付の10～15日前まで	1回	1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
ソイリーン	I:8A・I:8B	作付の10～15日前まで	1回	耕起整地後、30cm間隔のトリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。

<ミトマト> ハダニ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マイトコーネフロアブル	I:20D	収穫前日まで	1回	散布
クムラス ※1	I:UN/F:M02(M)	-	-	散布
アカリタッチ乳剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
ムシラップ ※1		収穫前日まで	-	散布
粘着くん液剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
ボタニガードES ※1	I:UNF	発生初期	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

<ミトマト> トマトサビダニ

1. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（マルハナバチの被害防止の項を参照）
2. サフオイル乳剤は、散布液調製後、攪拌しながらできるだけ速やかに散布する。
3. パルミノに機能性展着剤を加用すると、葉害を引き起こす恐れがあるので、加用を避ける。また、ボルドー液等アルカリ性薬剤と混合すると分解が促進されるので、混用を避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	5回以内	散布
イオウフロアブル	I:UN/F:M02(M)	発生初期	-	散布
クリアザールフロアブル	I:23	収穫前日まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	3回以内	散布
コロマイト乳剤	I:6	収穫前日まで	2回以内	散布
サフオイル乳剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
パルミノ	I:UN/F:M10(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
ファインセーブフロアブル		収穫前日まで	3回以内	散布
マイトコーネフロアブル	I:20D	収穫前日まで	1回	散布

マツ乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
------	------	--------	------	----

<ミニトマト> アザミウマ類

1. ミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマは5～7月と9～10月に発生が多い。
2. 本虫はトマト黄化えそウイルス(TSWV)を伝播する。
3. 育苗は防虫網を張った施設内で行い、本虫の防除を徹底する。
4. 施設開口部に防虫網を張り、外からの侵入を防ぐ(物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)。
5. 施設周辺の花き類が発生源となるので、不要な花、雑草は除去する。
6. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること(マルハナバチの被害防止の項を参照)。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
ベストガード水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<ミニトマト> アブラムシ類

1. 有翅アブラムシの飛来は8月下旬から10月下旬、4月下旬から7月に多い。
2. 主にモモアカアブラムシが寄生し、キュウリモザイクウイルスを媒介する。
3. シルバーストライプポリ又はシルバーポリのマルチをはると、有翅アブラムシの飛来が少なくなり、ウイルス病の発生を減少させることができる。
4. ハウスの開口部に防虫網を張り有翅虫の飛来を防ぐ(物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)。育苗用ハウスにも防虫網を張る。
5. エコピタ液剤、サンクリスタル乳剤、フーモン、ムシラップ、粘着くん液剤は、薬液が虫にかかると殺虫効果がある。
6. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること(マルハナバチの被害防止の項を参照)。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ウララDF	I:29	収穫前日まで	3回以内	散布
エコピタ液剤		収穫前日まで	-	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
チェス顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
アドマイヤー1粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
モスピラン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
ダントツ粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ベストガード粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ヨーバルフロアブル	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
ムシラップ ※1		収穫前日まで	-	散布
粘着くん液剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
オレート液剤 ※2	H:0	発生初期～収穫前日まで	-	散布
ボタニガード水和剤 ※3	I:UNF	発生初期	-	散布
アフィパール ※3		発生初期	-	放飼
ナミトップ ※3		発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(いちごを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

<ミニトマト> コナジラミ類

1. ハウスの開口部に防虫網を張り、有翅虫の飛来を防ぐ(物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照)。
2. 夏期にはハウスを密閉し熱殺する。
3. 発生のまん延を防ぐため、被害植物や雑草は除去後埋没するか、屋外に堆積し、薬剤を散布してからビニールをかけて死滅させる。
4. エコピタ液剤、サンクリスタル乳剤は、薬液が虫にかかると殺虫効果がない。
5. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること(マルハナバチの被害防止の項を参照)。
6. モベントフロアブルはマルハナバチへの影響日数が30日と長いので注意する(マルハナバチに対する被害防止の項を参照)。
7. ボタニガードESの使用に当たっては、生物的防除法 4. 天敵資材による防除方法の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アニキ乳剤	I:6	収穫前日まで	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	2回以内	散布
ウララDF	I:29	収穫前日まで	3回以内	散布
エコピタ液剤		収穫前日まで	-	散布
クリアザールフロアブル	I:23	収穫前日まで	2回以内	散布
グレーシア乳剤	I:30	収穫前日まで	2回以内	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
コロマイト乳剤	I:6	収穫前日まで	2回以内	散布
サフオイル乳剤	F:NC	収穫前日まで	-	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	2回以内	散布
チェス顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫前日まで	2回以内	散布
バリアード顆粒水和剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ベストガード水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

ボタニガードES	I:UNF	発生初期	-	散布
モベントフロアブル	I:23	収穫前日まで	3回以内	散布
アクタラ粒剤5	I:4A	育苗期後半	1回	株元散布
アルバリン粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布
スタークル粒剤	I:4A	育苗期	1回	株元散布
アクタラ粒剤5	I:4A	定植時	1回	植穴処理
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
モスピラン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
ダントツ粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ベストガード粒剤	I:4A	は種時又は鉢上げ時	1回	育苗培土混和
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	鉢上時又は定植時	1回	灌注
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	鉢上時又は定植時	1回	灌注
プレバソンフロアブル5	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ベリマークSC	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
ボタニガードES ※1	I:UNF	発生初期	-	散布
ムシラップ ※1		収穫前日まで	-	散布
オレート液剤 ※2	H:0	発生初期～収穫前日ま	-	散布
プリファード水和剤 ※3		発生初期	-	散布
ボタニガード水和剤 ※4	I:UNF	発生初期	-	散布
エルカード ※4		発生初期	-	放飼
エンストリップ ※4		発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(いちごを除く)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(施設栽培、ただし、いちごを除く)」の登録薬剤

※4 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

#### <ミニトマト> ハモグリハエ類

1. 雑草にも寄生するのでハウス内及び周辺の除草を行う。
2. ハウスの開口部に防虫網を張り、成虫の飛来を防ぐ（物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照）。
3. 育苗期の防除を徹底し、本ぼに無寄生苗を定植する。
4. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（マルハナバチの被害防止の項を参照）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コロマイト乳剤	I:6	収穫前日まで	2回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
トリガード液剤	I:17	収穫前日まで	2回以内	散布
プレバソンフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
アクタラ粒剤5	I:4A	定植時	1回	植穴処理
アルバリン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
スタークル粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和
ダントツ粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴処理土壌混和
ヨーバルフロアブル	I:28	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
ヒメトップ ※1		発生初期	-	放飼
ミドリヒメ ※1		発生初期	-	放飼

※1 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

#### <ミニトマト> トマトハモグリハエ

1. 雑草にも寄生するのでハウス内及び周辺の除草を行う。
2. ハウスの開口部に防虫網を張り、成虫の飛来を防ぐ（物理的防除法・防虫網を用いた害虫飛来防止法を参照）。
3. 育苗期の防除を徹底し、本ぼに無寄生苗を定植する。
4. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止の項を参照）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスケード乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
モスピラン粒剤	I:4A	定植時	1回	植穴土壌混和

#### <ミニトマト> ハスモンヨトウ

1. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止の項を参照）。
2. 幼虫の齢期が進むと薬剤に対する抵抗力が強くなるので早期発見、早期防除に努める。
3. ビニールの障壁を設けたり、溝を掘るなどして幼虫の侵入を防止する。
4. 老齢幼虫は捕殺に努める。
5. 黄色灯の利用により、発生を軽減できる。Web版のPDFファイル（物理的防除法）を参照する。
6. 施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、成虫のと飛込みを防ぐ。「物理的防除法4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタプロン乳剤	I:15	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布

エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
バシレックス水和剤 ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

〈ミトマト〉 オオタバコガ

1. マルハナバチ使用ハウスでは、薬剤散布後の放飼について十分注意すること（家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止の項を参照）。
2. 幼虫の齢期が進むと殺虫効果が落ちるので、老熟幼虫は補殺する。
3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、成虫のと飛込みを防ぐ。「物理的防除法4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタプロン乳剤	I:15	収穫前日まで	3回以内	散布
アフーム乳剤	I:6	収穫前日まで	5回以内	散布
カスケード乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナSC	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
デルフィン顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フェニックス顆粒水和剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
プレオフロアブル	I:UN	収穫前日まで	2回以内	散布
プレバソフロアブル5	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
マッチ乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
エコマスターBT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
エスマルクDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
クオークフロアブル ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
トアローフロアブルCT ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布
フローバックDF ※1	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

〈ミトマト〉 青枯病

1. 7～9月の20℃以上の温度で発病するので注意する。
2. 発病株は抜き取って処分する。
3. 刃物はケミクロンG50～100倍液に約5秒間浸漬して消毒する。
4. 抵抗性台木に接木する。
5. 発生があったほ場は5～6年間以上ナス科作物の栽培をやめる。
6. 常発地帯では有底床（ビニールを敷くなど）として隔離する。
7. 耐病性品種を栽培する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
クロールピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
クロールピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり10～15錠処理」地表面に所定量を散布処理する。

クロルピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり15～20錠処理」地表面に所定量を散布処理後、深耕ローラーを用いて混和处理する。
-----------	------	--	--------------------------	--

#### <ミニトマト> 萎凋病

1. 萎凋病には、3つのレース（J1、J2、J3）が知られている。抵抗性品種を栽培する。
2. 抵抗性台木に接木する。
3. 発病株は抜き取り処分する。
4. 発病ほ場は連作を避け、5～6年間以上ナス科作物の栽培をやめる。
5. ネコブセンチュウ類の寄生は本病を誘発するが、クロルピクリンくん蒸剤はこれらにも登録があり、土壌消毒で同時に防除できる。
6. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
キルパー	I:8F	は種又は定植の15日前まで	1回	予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
ベンレート水和剤 クロールピクリン	F:1(B1) I:8B	定植前～定植1ヶ月後	2回以内 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌灌注 土壌くん蒸
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
トラベックサイド油剤	I:8F	は種又は植付の21日前まで	1回	・圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のフタリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しポリエチレン、ビニール等で被覆する。 ・薬剤処理7～10日後にガス抜き作業を行う。
ダブルストッパー	I:8A・I:8B	作付の10～15日前まで	1回	土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
ソイリーン	I:8A・I:8B	作付の10～15日前まで	1回	耕起整地後、30cm間隔のフタリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
クロルピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。 <圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
クロルピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。

#### <ミニトマト> うどんこ病

1. カリグリーンは治療効果にすぐれるが残効性が短いので、発病初期に1週間に2～3回集中散布する。
2. 野菜類のうどんこ病の項も参照する。

3. パルミノに機能性展着剤を加用すると、薬害を引き起こす恐れがあるので、加用を避ける。また、ボルドー液等アルカリ性薬剤と混合すると分解が促進されるので、混用を避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフェットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
エコピタ液剤		収穫前日まで	-	散布
カリグリーン	F:NC	収穫前日まで	-	散布
クロスアウトフロアブル	F:50(B6)	収穫前日まで	2回以内	散布
サンクリスタル乳剤		収穫前日まで	-	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
パルミノ	I:UN/ F:M10(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
パンチョTF顆粒水和剤	F:3(G1)・F:U06(U)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
園芸ボルドー	I:UN/ F:M02(M)・F:M01(M)	-	-	散布
アカリタッチ乳剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
グリーンカップ ※1	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
ハーモメイト水溶剤 ※1	F:NC	収穫前日まで	-	散布
フーモン ※1		収穫前日まで	-	散布
粘着くん液剤 ※1		収穫前日まで	-	散布
インプレッションクリア ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布
ボタニガードES ※1	I:UNF	発病前～発病初期	-	散布
ボトキラー水和剤 ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

#### <ニトマト> 疫病

1. 露地栽培では敷きわらを行う。
2. 温室やビニルハウスで低温多湿時には加温して乾燥をはかる。
3. 敷きわらをする(施設栽培:1t/10a)。施設での敷きわらは、冬期に夜温が1～3℃低下するので注意する。
4. 薬剤散布は発病前から4～7日おきに葉及び茎にいいいに散布する。
5. 発病期に降雨が続く時は小雨中でも薬剤散布が必要である。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
グリーンカップ	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
コサイド3000	F:M01(M)	-	-	散布
ゾーベックエンテクタSE	F:21(C4)	収穫前日まで	2回以内	散布
	F:49(F9)			
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	-	-	散布
フェスティバル水和剤	F:40(H5)・F:M01(M)	収穫前日まで	3回以内	散布
フォリオゴールド	F:4(A1)・F:M05(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
プロボーズ顆粒水和剤	F:40(H5)・F:M05(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ペンコゼブフロアブル	I:UN/ F:M03(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ホライズンドライフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
	F:27(U)			
ライメイフロアブル	F:21(C4)	収穫前日まで	4回以内	散布
ランマンフロアブル	F:21(C4)	収穫前日まで	4回以内	散布
レーバスフロアブル	F:40(H5)	収穫前日まで	3回以内	散布
園芸ボルドー	I:UN/ F:M02(M)・F:M01(M)	-	-	散布

#### <ニトマト> かいよう病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
カップパーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
クプロシールド	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布

#### <ニトマト> 褐色根腐病

1. 抵抗性品種を台木として接木栽培する。
2. 初期発病株は見つけしだい抜き取って処分する。発病後期のものは収穫後集めて処分する。
3. 水田地帯のハウス栽培では夏作に水稻を栽培する。発病が増加した場合には、次の方法でハウス処理を行う。夏の高温期(7月上旬～9月上旬)に10a当たり稲わら1tと石灰窒素100kgを土壌中にすき込み、湛水した後ビニルマルチを行うか、又は還元状態が作り易い土壌では代かき湛水のみでハウスを密閉する。
4. ハウス密閉処理はハウスのビニルの汚れのひどい時は洗浄する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

<ミニトマト> すずかび病

1. 本病は葉かび病に症状が類似しており肉眼での判別は困難。顕微鏡観察では分生子が細長いことから容易に判断でき
2. 葉かび病抵抗性の有無に関わらず発病するため、抵抗性品種に発病がみられた場合には、本病の可能性がある。
3. 発病葉や残渣は伝染源となるので除去し、ほ場外へ出して処分する。
4. 施設内では多湿条件とならないよう、かん水、換気に注意する。
5. ペノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフエットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
クリーンカップ	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	-	散布
シグナムWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	収穫前日まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ニマイバー水和剤	F:1(B1)・F:10(B2)	収穫前日まで	3回以内	散布
フセキワイドフロアブル	F:53(B7)・F:M07(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
園芸ボルドー	I:UN/F:M02(M)・F:M0	-	-	散布
置型しなもん	F:BM03(BM)	発病前～発病初期	-	本剤を温風を発生する装置の吹出口付近に設置して揮散させる

<ミニトマト> 苗立枯病(ピシウム菌)

1. 苗立枯病の主な病原菌はリゾクトニアであるが、その他ピシウム、フィトフトラ、フザリウムなどによる病害もあ
2. 床土は過湿にならないよう管理する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

<ミニトマト> 苗立枯病

1. 苗立枯病の主な病原菌はリゾクトニアであるが、その他ピシウム、フィトフトラ、フザリウムなどによる病害もあ
2. 床土は過湿にならないよう管理する。
3. 病原菌の種類によって使用できる剤に制限がある。リゾクトニア及びピシウム菌に対してのみ使用できる剤：クロピクテープ。リゾクトニア菌に対してのみ使用できる剤：ダズメット粉粒剤、モンカット水和剤。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クロールピクリン	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸
クロールピクリン錠剤	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。

<ミニトマト> 苗立枯病(リゾクトニア菌)

1. 苗立枯病の主な病原菌はリゾクトニアであるが、その他ピシウム、フィトフトラ、フザリウムなどによる病害もあ
2. 床土は過湿にならないよう管理する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。
バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。
モンカット水和剤	F:7(C2)	は種時～子葉展開時	1回	土壌灌注
リゾレックス水和剤	F:14(F3)	は種時	1回	土壌灌注
クロピクテープ	I:8B		2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	土壌くん蒸

<ミニトマト> 根腐萎凋病

1. 萎凋病 (J3) として同定されていたが、1989年に根腐萎凋病に改められた。萎凋病と違い低温期に発生が多い。
2. 抵抗性台木に接木する。
3. 発病株は抜き取り処分する。
4. 発病ほ場は連作を避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガスタード微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

バスアミド微粒剤	I:8F	は種又は定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
----------	------	--------------	----	-----------------------

〈ミニトマト〉 灰色かび病

1. ハウス栽培では換気を十分して湿度を下げる。
2. 被害果及び茎葉は摘みとって処分する。
3. 敷きわらをする(施設栽培:1t/10a)
4. 施設での敷きわらは冬期の夜温が1～3℃低下するので注意する。
5. カリグリーンは治療効果にすぐれるが残効性が短いので、発病初期に1週間に2～3回集中散布する。
6. 野菜類の灰色かび病の項も参照する。
7. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロケア水和剤	F:BM02(BM)	収穫前日まで	—	散布
アフェットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
カナメフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	4回以内	散布
カリグリーン	F:NC	収穫前日まで	—	散布
ゲッター水和剤	F:1(B1)・F:10(B2)	収穫前日まで	3回以内	散布
ケンジャフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
セイビアーフロアブル20	F:12(E2)	収穫前日まで	3回以内	散布
ピクシオDF	F:17(G3)	収穫前日まで	4回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
フルピカフロアブル	F:9(D1)	収穫前日まで	4回以内	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	散布
置型しなもん	F:BM03(BM)	発病前～発病初期	—	本剤を温風を発生する装置の吹出口付近に設置して揮散させる
ロブラールくん煙剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	くん煙
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	常温煙霧
エコショット ※1	F:BM02(BM)	収穫前日まで	—	散布
グリーンカップ ※1	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	—	散布
ハーモメイト水溶剤 ※1	F:NC	収穫前日まで	—	散布
インプレッションクリア ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	—	散布
ボトキラー水和剤 ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	—	散布
アグロケア水和剤 ※1	F:BM02(BM)	収穫前日まで	—	常温煙霧
ボトキラー水和剤 ※1	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	—	常温煙霧

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

〈ミニトマト〉 葉かび病

1. 抵抗性品種を栽培する。
2. 温室やビニルハウスでは多湿にならないよう、かん水、換気、温度に注意する。
3. アグロケア水和剤、インプレッションクリア、エコショットについては生物的防除法 2. 拮抗作用を利用した防除方法の項を参照。
4. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロケア水和剤	F:BM02(BM)	収穫前日まで	—	散布
アフェットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
インプレッションクリア	F:BM02(BM)	発病前～発病初期	—	散布
エコショット	F:BM02(BM)	収穫前日まで	—	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
カップパーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
カリグリーン	F:NC	収穫前日まで	—	散布
カンタスドライフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
グリーンカップ	F:M01(M)・F:	収穫前日まで	—	散布
ゲッター水和剤	F:1(B1)・F:10(B2)	収穫前日まで	3回以内	散布
サンヨール	F:M01(M)	収穫前日まで	4回以内	散布
シグナムWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	収穫前日まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	—	—	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	5回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
フセキワイドフロアブル	F:53(B7)・F:M07(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベルコートフロアブル	F:M07(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベンコゼブフロアブル	I:UN/ F:M03(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ラリー乳剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
園芸ボルドー	I:UN/ F:M02(M)・F:M01(M)	—	—	散布

<ミニトマト> 斑点細菌病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
銅パーシム水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
コサイド3000 ※1	F:M01(M)	-	-	散布
クプロシールド ※1	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

<ミニトマト> 斑点病

- 窒素肥料の過多を避けるとともに、肥切れさせない。
- 換気をはかり、多湿条件下で栽培しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アフエットフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
アミスターオブティフロアブル	F:11(C3)・F:M05(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	-	-	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	散布

<ミニトマト> 輪紋病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー	F:M01(M)	発病前～発病初期	-	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
銅パーシム水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
シグナムWDG	F:7(C2)・F:11(C3)	収穫前日まで	2回以内	散布
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ペンコゼブフロアブル	I:UN/F:M03(M)	収穫前日まで	2回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	3回以内	散布